

2022

第9回福岡県  
木造・木質化建築賞



# ご挨拶

森林は、再生可能な資源である木材の生産だけでなく、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の緩和、土砂災害の防止、豊かな水や空気の供給など、さまざまな面から私たちの安全・安心な暮らしを支えています。

この森林の恵みを持続的に享受していくためには、森林の適正な整備・保全を続けながら利用期を迎えた森林資源を有効活用する、「伐って、使って、植えて、育てる」サイクルを維持する必要があります。

このため、県では、公共建築物だけでなく、民間建築物も含めた建築物全般の木造・木質化の推進に向け、県産木材を利用した木質リノベーションへの支援や、商業ビルやオフィスビルの木造化に必要な県産木材の供給体制づくりや建築士の育成を進め、新たな需要の創出に取り組んでいるところです。

こうした取り組みを進める上でモデルとなる優れた建築物を表彰する「福岡県木造・木質化建築賞」も、今年度で第9回を迎え



福岡県知事  
服部 誠太郎

した。

今回は、多くの方が訪れる商業施設や古民家の木材を再利用した住宅、近年注目されているCLT<sup>※</sup>を使用した施設など多数の応募をいただき、選考委員会の厳正な審査を経て、大賞2点、優秀賞3点、特別賞2点、奨励賞4点、計11点を「福岡県木造・木質化建築賞」に決定しました。受賞された建築物は、いずれも木の持つ温かみや木目の美しさといった、木材ならではの特長を生かした素晴らしいものです。近くにお越しの際にはぜひこれらの建築物をご覧になり、木材の良さを感じていただきたいと思います。

県では、引き続き、県産木材の需要拡大に向けた取り組みを進めてまいります。今後とも、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、選考委員の皆さまのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、受賞者ならびに応募いただいた皆さまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

※Cross Laminated Timber の略。板の層を互いに直交する積層接着した厚型パネル。断熱性と耐震性に優れており、中高層建築等の木造化による新たな木材需要の創出が期待される。

## 総評

元来、建築物の多くが木造であった日本は、都市部の大火による甚大な被害を経験し、中大規模建築を中心に鉄骨造・鉄筋コンクリート造が現在の主流となっています。特に高度成長期にはコンクリート、金属などを建築材料とした建設技術が目覚ましい発展を遂げました。一方、地球温暖化対策として脱炭素社会の推進が求められる今、材料の生産、建築物の維持・活用、解体・廃棄のそれぞれの過程で二酸化炭素排出を抑える配慮が求められています。木材はそれ自体が大気中の二酸化炭素を吸収固定化した材料であり、加工や廃棄に伴う二酸化炭素排出が低い環境にやさしい再生可能材料です。また、断熱性も高い木材は、使い方によって住環境の向上や冷暖房の省エネルギーに貢献するほか、一定の防耐火性、強度性能を有しています。合板、LVL、集成材やCLTなどの木質材料の性能向上、利用技術の開発が進み、コンクリートや金属に代わって木材が使用される建築事例も多く見られるようになりました。このような事例を広く知っていただくことが木材の利用促進には重要であり、福岡県木造・木質化建築賞の意義もさらに高まりつつあります。しかし、中大規模の建築では、木材はコンクリートや鉄に比べ「品質」「量」「価格」「納期」などの面で思うように調達



福岡県木造・木質化建築賞  
選考委員会  
委員長 藤本 登留

することが難しい材料といわれています。生物材料である木材の調達の工夫について参考となる受賞作品もありますので、今後の木造建築にお役に立つものと期待しています。

第9回福岡県木造・木質化建築賞の選考では27点の応募があり、住宅が10点、保育施設が6点、事務所や研修施設が6点、その他店舗などの建築作品が見られました。このうち、内装を木質化した鉄筋コンクリート造などの非木造建築が5点、木造および木造との混構造が22点です。

第1次選考は、6名の選考委員によって書類審査を実施し、協議および投票によって11点を最終選考の対象建築物に選出しました。

最終選考は、2日間にわたり実施しました。11点の対象建築物を現地審査したうえ、最終選考委員会で協議および投票によって大賞は木造の部、木質化の部の各1点、優秀賞は木造の部2点、木質化の部1点、特別賞2点、奨励賞4点の全11点が受賞建築物に決定しました。木造の部の大賞は、企業の研修施設で、都市郊外の丘陵地にある森林環境に溶け込んだリラックスできる開放的な木造建築です。木質化の部の大賞は、事務所建築でありながら木材、鉄骨、コンクリートを構造材として居心地の良い開放的な木質空間を創りだし、外観的には外周4面が開放的で庇が深い切妻屋根の、周囲の緑になじむ魅力的建築です。受賞作品はいずれも施設の用途別機能性を備えた木の魅力あふれる建築物です。

最後に、審査にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

## 福岡県木造・木質化建築賞 概要

### 1 表彰の目的

県では、県産木材の需要拡大の推進をより一層図るため、県民の皆さんや建築関係の方々に対し、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し普及啓発することを目的に、本賞を実施しています。

### 2 賞の対象

公共建築物や店舗・住宅等の木造・木質化を推進するにあたり、モデルとなる優れた建築物

### 3 賞の部門

- 木造の部（大賞・優秀賞） ●木質化の部（大賞・優秀賞）
- 特別賞 ●奨励賞

### 4 主な選考基準

- \*国産材を創意工夫により活用し、林業振興に寄与しているもの
- \*木材の特徴や良さを活かし、建築物の木造・木質化に波及効果があるもの

### 5 選考委員

役職	氏名	職名
委員長	藤本 登留	九州大学農学研究院准教授
副委員長	大森 洋子	久留米工業大学 建築・設備工学科教授
委員	工藤 卓	元近畿大学産業理工学部 建築デザイン学科教授
委員	松尾 智昭	(一社)福岡県木材組合連合会 専務理事
委員	岩尾 款	西日本新聞社クロスメディア報道部 デスク兼記者
委員	真井 浩一	福岡県農林水産部林業振興課長



建築主 | 西部ガスホールディングス株式会社 代表取締役社長 道永幸典  
設計者 | 株式会社竹中工務店 九州一級建築士事務所 吉田直弘  
施工者 | 株式会社竹中工務店 九州支店 執行役員支店長 藤本博志  
建築物の用途 | 事務所(研修所)  
構造・規模(階数) | 木造・鉄筋コンクリート造・地上2階  
延床面積 | 997.6㎡

**設計趣旨** 企業の脱炭素社会実現に向けた社会的姿勢と、油山の豊かな自然を享受しリラックスして学び・暮らす研修所にしたいという要望に応えるため、「豊かな自然と共生する木造研修所『森のプラットフォーム』」をコンセプトに、自然豊かな環境に呼応する建築計画とした。

集成材の利用を最小限とし、製材と集成材のハイブリッド架構を採用するとともに、一般流通材を最大限活用することで、総コストを最小限に抑えながら、大スパンの空間を含め様々な用途・スケールの空間を、在来軸組構法で実現した。それにより、森とのつながりを意識した複雑な建物配置・形状を可能としている。

自然を内部まで最大限引き込むべく、柱・勾配梁で構成し、梁桁でつなぐ方式とし、開口部側の面戸材をなくすことで、開放性を確保しながら施工性の向上を図った。

### 講評

九州のエネルギーインフラを支える企業として、脱炭素社会に貢献すべく九州産の木材や敷地内で伐採された木材を使った研修施設です。食堂・リビングは現して使ったスギ柱とヒノキ集成材勾配梁のみのシンプルな軸組工法の開放空間です。高耐震壁を設置するほか、化粧張り構造用合板を天井として張るなどで構造強度を確保しています。このようにして広い開口部を設けることができ、木材で囲まれた明るい内装空間ができています。木質空間は視覚的にも嗅覚的にも癒しの空間となることが科学的に明らかにされており、研修施設として好ましい環境であると考えられます。接合には金具が見えないGIR（グリーンロッド）が採用され、意匠的にスマートで落ち着きを感じられます。油山の丘陵地の森の中に溶け込んだ外観を形成し、全体的に内外で自然を感じることができます。木材使用料は200㎡を超える材積となり、ウッドショックの中、木材調達に要する期間や範囲を工夫し、支障がない施工計画や適正な木材加工工程期間を確保することで、高品質な部材を得ることができることを示した事例です。

# 木質化の部 大賞

株式会社 ヒタヤ 小石原事務所

所在地: 朝倉郡東峰村



建築主 | 株式会社ヒタヤ 代表取締役 柳瀬謙二  
設計者 | 有限会社田中俊彰設計室 取締役 田中俊彰  
施工者 | 時川建設有限会社 代表取締役 時川貴紀  
建築物の用途 | 事務所  
構造・規模(階数) | 混構造(主要構造:鉄骨造)・地上1階  
延床面積 | 183.07㎡

**設計趣旨**  
自然豊かで多くの窯元が点在する旧小石原村に計画した事務所建築。幹線道路沿いに面した間口の広い敷地に対して修景を行い、そこに建築を融合させた一体的な計画を考えた。建築が周辺の景観に溶け込み、長い時間耐えられる風景となり、それらが街と一体となって美しい景観を形成していくことを期待している。

建物は単純な形態であるが、木造・RC造・鉄骨造の混構造で各構造材の長所と短所を補い合う特徴的な構法の建築となっている。また、厳しい環境条件の中でも快適で心地よく過ごせるように、暖気や通風、採光をコントロールし、取り入れた。さらに、4面ガラス貼りで地域に開いた建築として外部と連続させつつ、夜間は行灯のように街を温かく照らしている。

## 講評

小石原焼で有名な焼き物の里の幹線道路沿いに建つ事務所です。道路側から見ると里山の緑を背景にした4面ガラス張りの開放的な建物です。床面を高く、庇を深くした切妻屋根で、テラスをガラス張りの外周に配置したスタイリッシュなフォルムは、地域のシンボリック的存在になっています。部屋を区切るコンクリートの壁と、外周の鉄骨組みにより、開放的なガラス張りでありながら木材の桁や垂木を象徴的に使うことができています。

トップライトや広いガラス窓で十分な光環境を実現していることに加え、温度や湿度をコントロールできる最新の省エネ空調設備導入とふんだんな木質内装材の配置も相まって、快適な事務室空間を造り上げています。木造建築に精通した施工業者は最適な国産材を調達するルートも持ち、その材料を使った職人の高度な施工技術も本建築の完成には欠くことができなかったのではないのでしょうか。



写真撮影: Kouji Okamoto

# 木造の部 優秀賞

## 南畑ピノキオ森のこども園

所在地:那珂川市



写真撮影:中村絵

建築主 | 社会福祉法人正道会 会長 松尾正一郎  
設計者 | 株式会社INTERMEDIA 代表取締役 佐々木翔  
施工者 | 黒木・大匠建設特定建設工事共同企業体  
(黒木建設株式会社・株式会社大匠建設)

建築物の用途 | 幼保連携型認定こども園

構造・規模(階数) | 木造・地上1階

延床面積 | 978.4㎡

### 設計趣旨

那珂川市の中でも五ヶ山へ抜ける山あいにもまれた林業の盛んな農村地域であったため、周囲の山々の素材感と呼応するよう木造を採用した。こどもたちの肌がふれる床材には地元那珂川市産のヒノキを活用した。

設計時から地元住民とワークショップを重ね、この園が南畑に還元できることを話し合い、休憩やイベント、バスの待合所として活用できる深い軒の「地域のえんがわ」が設けられた。この仕掛けは、これからの南畑の景観形成につながる。

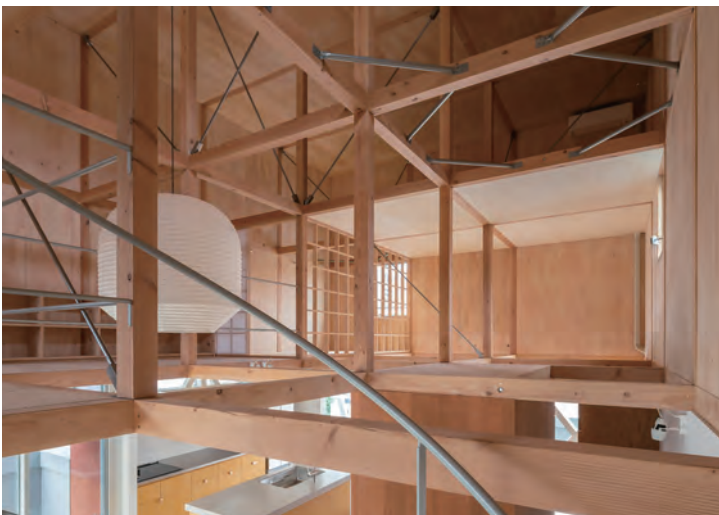
切妻屋根が3つ連続した架構計画としており、全ての見え掛かり材を105×105で構成することで、気積の大きな空間ボリュームに対し細く感じ取れるようなスケール感としている。

木造に特化した技術力の高い施工者と綿密に協議を重ねることで実現した建築である。

# 木造の部 優秀賞

## 屋根裏の家

所在地:福岡市早良区



写真撮影:新建築写真部



写真撮影:表恒匡



写真撮影:新建築写真部

建築主 | 個人  
設計者 | ICADA 一級建築士事務所  
九州大学岩元真明研究室  
施工者 | 久木原工務店  
建築物の用途 | 住宅  
構造・規模(階数) | 木造・地上3階  
延床面積 | 131㎡

### 設計趣旨

コロナ禍において、住宅の在り方が見直される中、施主である共働き夫婦のため、単に書斎や収納をつくるのではなく、生活と仕事が生じり合い、未来の変化に柔軟に対応できる空間をつくりたいと考え、LDKの上に大きな屋根を架け、木のぬくもりがある巨大な屋根裏空間を浮かべた。1間グリッドの木製格子を積み重ねた屋根裏は、容易に増床・拡張可能であり、子供部屋・趣味の部屋・収納スペースなどの予測困難な将来に対応し、長く住み続けられる建物とした。

ウッドショックの中、一般的な予算の範囲で、歩留まりの良い設計や最適な構造設計を心掛け、4m以下の製材のみを使って巨大な木質空間を実現させた。木質空間には構造材のみならず、九州材の合板を床・壁・天井全体に用いる意匠とした。また、スチールの斜材と火打梁を構造解析に従って補強材として配しており、均質な木格子にアクセントを加えている。

# 木質化の部 優秀賞

幼保連携型認定こども園 若草幼稚園(あかりえ・みどりえ)

所在地:大牟田市



写真撮影:タナカ写真スタジオ田中太

建築主 | 学校法人泉ヶ丘学園 理事長 安元大介  
設計者 | 内記建築設計室 代表 内記英文  
施工者 | 株式会社今村組 代表取締役 今村勝之  
建築物の用途 | 幼保連携型認定こども園  
構造・規模(階数) | 木造(在来工法)・  
(あかりえ)地上2階 (みどりえ)地上1階  
延床面積 | (あかりえ) 1,426.85㎡ (みどりえ) 323.79㎡

## 設計趣旨

大牟田市から雲仙普賢岳まで一望できる泉ヶ丘に、創立70周年の記念事業として、2つの新園舎(あかりえ、みどりえ)と屋根付き園庭(ソラシドーム)の建設が計画された。

過疎化や少子化の影響が顕著な県南地域において、選ばれる幼稚園となるため、園児、保護者、教職員の安全と快適性、質の高い教育や保育に対応できる展開力を備えた空間、また災害に強く地域に開放できる施設であること、そして何よりも、木の香りのする温かい雰囲気のある園舎づくりが求められた。

保育エリアを平屋部分としたため耐火等の構造要求はなかったが、防火壁や内装制限を避けるため木造の準耐火構造とし、結果、内装の木質化を徹底することとした。また、敷地にある最大4.5mの高低差を建築の断面で吸収することにより、天井の低いロフトや立体的な絵本コーナーなど、子どもたちにとって発見と経験の空間を生み出すことができ、かつ、住宅地の景観として建物のヴォリュームを低く抑えることにも繋げることができた。

園内各所には「幼稚園の歴史」や「ふるさと大牟田」のことを描いた壁画イラストが散りばめられており、ここで学び育った子どもたちが、ふるさとを愛し大切に想う心を育ててくれることを願っている。

## 特別賞



幸福の青い鳥 所在地:八女市

建築主 | 個人  
設計者 | 立石建築設計事務所 代表 立石信夫  
施工者 | 井上建築 代表 井上静夫  
建築物の用途 | 住宅  
構造・規模(階数) | 木造・地上1階  
延床面積 | 137.48㎡

## 設計趣旨

田園が広がる地域の一角に建つ住宅。どこにでもあるように見える入母屋造りではあるが、今ではめずらしい自然乾燥した県産木材(八女杉)を使用している。

伝統技術でもっと家の素晴らしさを発信するため、構造部材を手刻みで加工している。昔の住宅に使用されていた松の木の梁組も手刻みで取り入れている。

土壁塗り、漆喰仕上げと燻された古材も融合させ、木造住宅で昔ながらの自然素材の家が夢だった施主の思いを実現させた。



宇美八幡宮保育園 所在地:糟屋郡宇美町

建築主 | 社会福祉法人子安会 理事長 伊藤佳和  
設計者 | 株式会社IWAKIRI S.A.一級建築士事務所 代表取締役 岩切重男  
施工者 | 株式会社和技研 代表取締役 花田和彦  
建築物の用途 | 保育園  
構造・規模(階数) | 木造・地上1階  
延床面積 | 613.21㎡

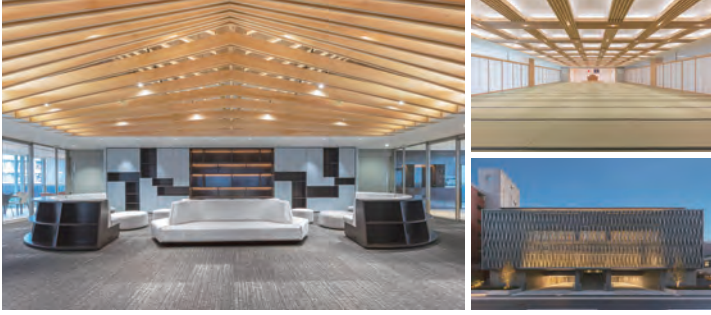
## 設計趣旨

縁と下屋・庇構造により作られる開放性と内外空間の連続性という日本建築のもつ形態的特質に、深い軒の環境調整機能を活かし採光補正・外気取入れチャンパー機能を持たせたハイサイドライトを設け新たな仕組みを持つ構成としている。

伝統的木工技術に支えられた木構造の架構が意匠空間となるよう、小梁を渡り腰(あご)掛けの仕口にて大梁にかみ合わせ連続梁桁構造とし強度を高め、同時に小梁に支えられる天井を大梁から浮かし木構造のフレームを顕在化させた空間とした。

類焼により消失した園舎を伝統的建造物の調査保存修復にも携わり技術の研鑽を重ねる棟梁とその大工集団の手刻みによる仕口と継手の木造の技術で再建し、園児たちに作るところから木造に触れてもらえることができたが、サステナブルな木工事の生産基盤の機会創出、木工事施工者の維持、施工体制・発注方式が望まれる。

# 奨励賞



## 福岡実践倫理会館 所在地:福岡市博多区

建築主 | 一般社団法人実践倫理宏正会 会長 上廣哲治  
設計者 | 株式会社竹中工務店九州一級建築士事務所  
本村英人、高山淳二、新開洋介  
施工者 | 株式会社竹中工務店九州支店 支店長 藤本博志  
建築物の用途 | 事務所  
構造・規模(階数) | 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造・地上4階  
延床面積 | 3233.97㎡

### 設計趣旨

全国に活動拠点を有する団体の研修施設で、女性や高齢者に利用されている。計画地は3方を低層の住宅等に囲まれた地域であるため、周辺生活者への配慮が求められた。

70年の歴史ある施設として伝統的な対称性の構えを踏まえた、低層建物が並ぶ周辺に溶け込むボリュームとしながら、九州地区の拠点としてこれまでのイメージを刷新し、柔らかく開かれた施設になることを意図した。大きな屋根の下で人々が集い語り合う場を設け、活発な活動を促すよう集いの館として象徴的な建物を目指した。

建物ファザードは、地域の伝統である博多織をモチーフとして、「織り」や「編み」の繊細で柔らかい表情が感じられる捻りルーバーによる編み込んだレイヤーを纏わせ、奥行きや陰影を感じさせ、刻々と移ろいゆく光の揺らぎを内部の光とともに緩やかに町に表出させることを試みている。



## 福岡おもちゃ美術館 所在地:福岡市博多区

建築主 | 特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会 理事長 多田千尋  
設計者 | 有限会社オフィスフィールドノート 代表取締役 砂田光紀  
施工者 | 杠建設株式会社 代表取締役 三瀬恵美子  
建築物の用途 | 商業施設  
構造・規模(階数) | 鉄筋鉄骨コンクリート造、地上1階  
延床面積 | 1237.45㎡

### 設計趣旨

大人と子どもがともに木のぬくもりに包まれた空間で遊び過ごすことのできる施設計画。大型商業施設内に設置するため、画一的なイメージにならないよう構想を練り、屋内のプレイランドをイメージするのではなく、あたたかも「森林浴」を楽しんでいるような錯覚を覚える空間を目指した。

内装には、福岡県産の柔らかいスギや香り豊かなヒノキ、木の表情を活かすためセダンの無垢材を無塗装で使用し、館内の各所で福岡県産の木の感触を楽しめる空間としている。

館内では靴を脱いでもらい、子ども達の感性を研ぎ澄まし木の空間を体感してもらう仕掛けとなっている。エントランスの「シンボルツリー」を過ぎると、博多湾～玄界灘をイメージした海に浮かぶ「方舟」、そして「ラーメン屋台」や「お菓子屋さん」、その先にある「雑木の森」など次々に木質の異空間や良質なおもちゃ遊びが子ども達の遊び心を満たし、好奇心を育み、豊かな記憶へつなげることを意図した。



## ほっともつと野芥店 所在地:福岡市早良区

建築主 | 株式会社采建築社 代表取締役 野村直樹  
設計者 | 株式会社Sai Design Architect 代表取締役 三池剛士  
施工者 | 株式会社采建築社 代表取締役 野村直樹  
建築物の用途 | 店舗  
構造・規模(階数) | CLTパネル工法・地上1階  
延床面積 | 79.18㎡

### 設計趣旨

木質系材料「CLT」の利点を生かした箱形の木製ユニットを基本とし、自由に組み合わせて建物をつくる新しい建築工法を用いた。工場で構造体であるユニットを組み立て、プレファブ化することで従来よりも工期を短縮でき、RC構造建築と比較しても軽量化できる。

本計画ではCLTだけでなく、環境配慮型コンクリートを利用することによりSDGsに基づいた社会貢献や、温かみのある天然木のおいしく風合いによる空間づくり、木質空間あふれるデザイン性の高い空間、食文化と木造建築文化、多面性あるサステナビリティある店舗づくりを目指した。



## 朝倉森林組合本所事務所(事務所棟・車庫棟) 所在地:朝倉市

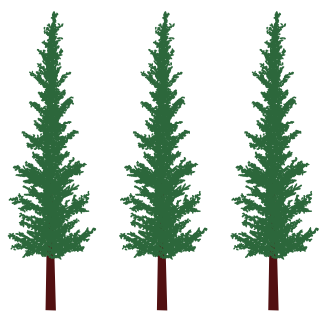
建築主 | 朝倉森林組合事務所 代表理事組合長 井手裕康  
設計者 | 株式会社ヒグチ設計 代表取締役 樋口健一郎  
施工者 | 黒田建設株式会社 代表取締役 黒田潔  
建築物の用途 | 事務所  
構造・規模(階数) | 木造・地上1階  
延床面積 | 611.08㎡

### 設計趣旨

「森林組合」の事務所であるため「森や木を感じる建物」をコンセプトとし、また永く利用される建物とする為にメンテナンス性を考慮し、ランニングコストを抑えた建築主に優しく管理しやすい建物を目指した。

県産木材の利用促進及び地域の製材所の参画に配慮し、使用する木材については極力集成材の使用を抑え一般流通材の規格品の使用に努めた。会議室の7.8mスパンの部分には木造トラス構造を採用し、広がりのある空間と木の力強さを演出した。

仕上げ材の一部には「東京オリンピック・パラリンピック」選手村ヒレッジプラザで使用された木材を東峰村より譲り受け、レガシーとして活用している。



## 2022 第9回福岡県木造・木質化建築賞

令和5年3月

福岡県農林水産部林業振興課木材流通係

TEL092-643-3549 FAX092-643-3541

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/gyosei-shiryo/mokuzou9panfu.html>



福岡県行政資料	
分類記号 PF	所属コード 4701002
登録年度 04	登録番号 0007